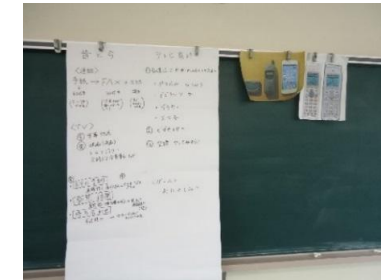


PTA活動紹介		高P連受付番号	3
PTA(学校)名	愛知県立千種聾学校	部門	特別支援
活動テーマ	手話を学んで(手話学習会&茶話会)		
キーワード	楽しく学ぶ	手話の良さ	聾者の生活を知る
開催日	H28年度は7月6日(水)、9月21日(水)、2月10日(金) 例年、年に3回実施している		
場所	千種聾学校会議室、保護者控え室		
時間	10:00~11:00		
参加者	幼稚部保護者、小学部保護者(毎回、保護者の半数近くが参加している)		
趣旨	聾学校では、授業はもとより生活のあらゆる場面で手話を使用している。それは、家庭においても同様である。しかし、手話を使えない保護者が以外に多く、親子でコミュニケーションが十分にとれないこともある。また、保護者が手話を学ぶ機会があまりないという現状があった。そこで、聴覚に障害のある保護者に聾者の先輩としての話を聞いたり、手話を楽しく学んだりする機会を設けるために、PTA主催で「手話学習会」や「茶話会」を行っている。身近な話題や子どもの話題を中心に手話でやりとりする中で、比較的自然に手話が身に付くように工夫している。		
活動ポイント	個々の手話のレベルや子どもの年齢に関係なく、みんなで楽しめることに重点をおいている。アットホームな雰囲気の中、何気ない会話に手話をつけることで自然に手話を覚えられている。		
主体委員会名・講師名等	企画、運営:研修委員会、講師:聴覚に障害のある保護者		
<p>〔手話学習会の始まり〕 聴覚に障害のある子どもたちとコミュニケーションがとれるようになることで、子どもたちの気持ちに寄り添うことができるようになる。だから、子どもたちと話ができるように、手話を学びたい。それによって、聴覚に障害のある子どもの周りにはいる人たちも幸せや喜びを感じてほしいという願いから手話学習会が始まった。そして、聾児に関するさまざまな情報を保護者同士で共有したり、聾者として、先輩保護者として下級生の保護者の相談に乗ったりアドバイスをしたりする機会として、茶話会が始まり、現在9年目となっている。</p> <p>〔手話学習会&茶話会について〕 幼稚部3歳から小学部6年生までの保護者がおり、手話のレベルはさまざまである。勉強という雰囲気だと堅苦しくなるため、楽しく手話が学べるように、その年の研修委員がアイデアを出し合い内容を決めてきた。</p> <p><今年度の活動内容></p> <p>○第1回 手話学習会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手話はどのくらい必要か? ・手話は聾者にとって言語である (日本手話と日本語対应手話の違い) ・聾者と聴者の違い ・ASL(アメリカの手話)とJSL(日本の手話) ・楽しい手話(あいうえお) 			
メール送信先		info@aichikoupren.org	

○第2回 手話学習会(茶話会を兼ねて)

- ・昔と今の聾者の生活の変化
 - ① 連絡方法:以前は手紙やFAX→今はスマホ
(メールだけではなく、テレビ電話で直接会話もできるようになった)
 - ② 以前はテレビの映像だけで内容を想像していた→今はテレビに字幕がついた
 - ③ 以前はホテルなどの予約が電話だったため、自分ではできなかった
→今はインターネットでできるようになった
- ・伝言ゲーム
参加者全員で5チームに分かれ、声なしの手話で伝言ゲームを行った。



〔参加した保護者からの感想〕

- ・楽しく学べて良かった。
- ・身近な内容で良かった。
- ・聾者の生活など、いろいろ聞けて良かった。
- ・ゲームなど楽しく学べる方法で良かった。次回も参加したい。
- ・聾者の会話を読み取る勉強をやってみたい。

〔今後の活動に向けて〕

今年度4月より全国で障害者差別解消法が施行され、愛知県では10月より手話言語の普及及び障害の特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例が施行された。そこで、本校PTAでも、アンケートの結果を次回の手話学習会に生かしながら、聾者にとって手話も日本語と同じように大切で必要なものであることを伝えていきたい。そして、聾者に関わるさまざまな情報を共有し理解することで、子どもたちの可能性を伸ばし、親子の関係を支援し、楽しい活動を通して成長していけるような会にしていきたいと思う。

